

政策立案への示唆

- 自分の所掌を超えて、セクター横断的・俯瞰的に見る。
- 欧州委員会発の先進的な政策の動きには学ぶべき点多いが、教訓と課題も。前提条件の違いも意識する必要あり。

一例) ※個人の感想

- 電力、水素、CCS、バイオ燃料・e-fuelまで視野を広げることの重要性。クリーン技術に対する技術中立的な視点の涵養、自分の所掌と他分野との密接な関係。
(電力→水素→ガス←バイオ燃料/e-fuel)
- 欧州委員会の様々な新政策には大いに注目。EUのガス政策（ガスパッケージ）など。
※ただし産業界・企業の動きや、EU加盟国ごとの個別事情（「持てる国」と「持たない国」）は分かりづらい。
- 2030年、2050年という時間軸の中で、先行するEUの「結果」を待つ時間が無い？
- 前提条件の違いを認識した上で欧州から学ぶ。（例：水素の生産・輸送の在り方の違いが、水素導入や支援策の在り方の違いどのように反映されるか。）
- 支援における「競争」の視点。（IRAとの違い。日本における政策検討で十分に意識されているか？）